



公立置賜長井病院 地域連携だより

令和7年7月 発行

令和7年6月17日に地域のケアマネージャー様、包括支援センター様、訪問看護師様と入退院時の情報提供について意見交換を行いました。ほんの一部ではありますが、いただいたご意見を報告させていただきます。

終末期医療への意見

- 家族が「癌末期」の病状や今後起こりうることを理解していなかった。「癌末期ですよ」としか聞いていない。在宅看取りの大変さをわかっていなかった。現実的なことを説明してほしい。
- 1～2ヶ月で亡くなってしまい、家族が後悔することもある。
- 救急に連れていけば良かったのか...連れていけば癌末期なのに救急に来るのか...看取る覚悟がないのか...と思われる
- 病院では今後どのような経過をたどるのか説明しているのか

➤ 終末期医療については、当院でもまだまだ課題が多い分野です。死へのイメージは人それぞれ異なり、家族の受け止め方も様々です。患者ごとに丁寧な支援が行えるよう、ACPプロジェクトチームを主導に院内でも研鑽を積んでいきます



身体拘束への意見

- 在宅では身体拘束はできないため、拘束を外した状態での様子を知りたい、外した時にどうなるのかわからない

➤ 身体拘束最小化に努めてまいります



人生すごろくも
楽しく行いました

排泄介助への意見

- 排泄状況（オムツ交換の回数やトイレ内動作できるかなど）がわかりにくい。自宅退院に向けてトイレ誘導など排泄介助をしてほしい



退院時情報への意見

- 医師からの病状説明後の、本人家族の反応が知りたい。説明に対しての理解度も合わせて知りたい
- 「看護経過」「在宅療養上の留意点」を特にみている。制限がある場合（水分や塩分、可動域等）は情報をもらいたい

いただいたご意見を院内でも共有し、患者家族が不安なく地域へ戻れるよう、スムーズにバトンタッチできるよう努めてまいります。ご参加くださいました皆様ありがとうございます。

